

ヨッサー ヨッサー

八幡の夏響く



勇壮に参道を練り歩く担ぎ手たち

高良神社・太鼓まつり

2トンにもなる屋形太鼓を担いで町内などを練り歩く八幡の夏の風物詩「太鼓まつり」が7月13、14日の2日間行われました。

まつりは、天明3年(1783年)ごろに石清水八幡宮の摂社である高良神社の例祭の宵祭として始まり、文政年間(1818〜30年)に入ると町ごとに屋形太鼓が作られ、太鼓を打ち鳴らしながら練り歩く姿に発展したようです。

期間中は、一区、二区、三区、六区の屋形太鼓の担ぎ手たちが、「ドン、ドン、ドンドンドン」と太鼓を打ち鳴らし、「ヨッサー、ヨッサー」と威勢の良い掛け声をあげながら、それぞれの町内を練り歩きました。

14日の日暮れからは、まつりのクライマックス「宮入」が同神社で行われ、各区の屋形太鼓4基と子ども屋形太鼓3基が集結。雨の降る中、屋形太鼓を担いで勇壮に参道を練り歩く担ぎ手たちの姿に、観衆からは大きな拍手と歓声が送られていました。

茂木さん執筆の効果紹介

全国や海外から広くエッセイ作品を募集している「第三回徒然草エッセイ大賞」の特別講演会を7月23日、文化センター小ホールで開催し、同賞選考委員で脳科学者の茂木健一郎さんが、「エッセイと脳科学」これからの徒然草」をテーマに来場者約150人の前で講演しました。

同賞は、平成29年の市制施行40周年を機に市が創設し、毎年開催。今回は、「発見」をテーマに作品を募集しています。

講演で茂木さんは、「メタ

徒然草エッセイ大賞特別講演会

認知」という自分の感情を細かく把握する脳の能力を紹介。発達させるトレーニングの一つとして、エッセイを書くことを挙げました。

また、メタ認知することで、感情が豊かになり、すてきなエッセイが書け、いい人生が送れると話し、「みんなと一緒にエッセイを書きましょう」と来場者たちに呼びかけていました。

同賞の募集は、9月30日まで。詳しくは、専用ホームページ(<http://www.tsurezure-essay.jp>)をご覧ください。



講演する茂木さん

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介していきます。身近な話題や、広報紙「ついで」の意見を、秘書広報課までお寄せください。

七夕に願いを込めて

七夕のいろいろなイベントを楽しむ「七夕 Bamboo Art Festival」が7月7日、石清水八幡宮で開催され、約2500人の親子連れなどが短冊に願い事を書いて笹に飾り付けました。

このイベントは、幼児や児童、地域住民などに、七夕に関連した催しの体験を通して、伝統文化の素晴らしさを感じてもらおうと、教職員で構成する団体「T.O.S.S.いちばん星」などが主催しました。



イタリア・ミラノの家具見本市に出展された提灯

イベントでは、竹を使った飛行機作りやたけのこグルメ、管弦楽コンサートなどを実施。南総門には、今年4月にイタリア・ミラノでの世界最大規模の家具見本市に出展された、同八幡宮の真竹を使った提灯が飾られました。

また、同八幡宮が御本殿前の参道脇に笹を設置。訪れた親子連れなどは、思い思いの願いを短冊に込めて、笹に飾り付けていました。

今月のこの人 さくらであい館 憩い演出



高橋 伸弥さん

プロフィール
淀川河川公園管理センターさくらであい館に勤務。香川県出身。10年間、香川県の国営讃岐まんのう公園での勤務を経て、平成29年にさくらであい館に赴任。

桜の時期には多くの人でにぎわう背割堤のそばにある「さくらであい館」で、館の運営業務や来館者対応、背割堤地区でのイベントの企画を行う高橋さん。

日頃から、一般の人やサイクリストが、快適に過ごすことができる環境づくりを心掛けながら、業務に取り組んでいます。

「360度の眺望が楽しめる展望塔や企画したイベントに満足したというお声をいただいたとき、喜びを感じます」と話し、三川合流域の魅力を伝えるために、シーズンごとのイベントは、地元で活動している個人や団体等に声をかけて

企画しています。

さくらであい館



「8月には『背割堤夏の休日2019』(8面に関連記事あり)など、夏休み向けのイベントを開催します。多くの人にさくらであい館を積極的に利用していただき、一緒に三川合流域を盛り上げていきたいです」と、地元の人と共に、地域の憩いの場を作り上げていきます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体等を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。秘書広報課へお問合せください。